

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか							
a	<p>◎高等教育機関として大学が追及すべき目的(建学の精神、教育理念、使命)を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】</p>	<p>本委員会の理念は以下の通りである。 『学部間共通外国語教育運営委員会は、「権利自由」「独立自治」さらには「世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」という本学の教育理念に基づき、「真の国際感覚」を持った「個」を育成するために、学部を超えて横断的に履修できる会話科目を中心とした外国語科目を設置していく。』 本委員会の目的は、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規定の中で明確にしている【1-49-1】。この規程の中では、本委員会の目的について、以下のように記述している。「明治大学に設置されている全学共通の学部間共通外国語科目における外国語教育の充実とその円滑な運営を図るため、教務部委員会の下に専門部会として、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会を置く。」 また、運営委員会は、次の各号に掲げる事項について審議することが同規定に、明記されている。 1) 学部間共通外国語教育の計画、立案に関する事項 2) 学部間共通外国語教育の実施に関する運営上の事項 3) 科目担当者の予備的選考に関する事項 4) 教科内容に関する事項 5) その他学部間共通外国語教育に関して運営委員会が必要と認めた事項</p>	<p>本学学生であれば、4キャンパスいずれのキャンパスでも受講が可能で、文系学部・理系学部に関わらず、学部を超えて横断的に履修ができ、多様な学習機会を提供している。 ネイティブスピーカーの教員を中心に、会話科目・資格科目・留学準備科目などを設置しており、学生が学部の科目以外に、外国語に触れる機会を提供している。【1-49-2:2頁】</p>		<p>学部における外国語科目の充実化等を考慮し、よりニーズに合った科目を提供できるよう、見直して改善をしていく。</p>		<p>1-49-1 明治治大学学部間共通外国語教育運営委員会規定 1-49-2 2014年度 学部間共通外国語シラバス、2頁「学部間共通外国語とは」</p>
b	<p>●当該付属機関・委員会の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】</p>	<p>本委員会の理念の中で、「権利自由」「独立自治」さらには「世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」という本学の教育理念に基づき、本委員会では、「真の国際感覚を持った個」を養成すべき人材として、各学部設置されている外国語科目をサポートしつつ、学生の多面的な語学能力の養成をはかることを目的としている。 また本委員会の目的は、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規定の中で明確にしている。【1-49-1】</p>					
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか							
c	<p>◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】</p>	<p>①構成員に対する周知方法と有効性 「学部間共通外国語シラバス」を作成し、ガイダンス等で学生に配布し周知した。【1-49-2】。また、シラバスをPDF化し、ホームページに掲載することで、広く周知を行った。【1-49-3】学部間共通外国語シラバスだけでなく、学内のグローバル人材育成のための取り組みを紹介する「Global Navi」の中でも紹介し、外国語を勉強する意欲のある学生への周知をおこなった。【1-49-4:2頁】 集中講座の内容については、講座終了後に事務局による実施レポートをホームページにて公開し講義の内容やその成果を広くアピールをした。【1-49-5】。 また、学部を超えて横断的に履修できる科目である事を学生により知ってもらうため、2008年度から使用しているMLP (Meiji Language Program) というニックネームをシラバス等で前面に押し出し、「授業中の異文化体験！」というキャッチフレーズも用い、親しみやすさをアピールしている。 ②社会への公表方法 大学ホームページにて周知している。【1-49-6】 また、受験生に対しては、受験生に配布をしている大学ガイドに本講座の内容を掲載しており、周知している。【1-49-7:148頁】</p>					<p>1-49-2 2013年度 学部間共通外国語シラバス 1-49-3明治大学外国語教育ホームページ http://www.meiji.ac.jp/edu/foreign/jikan/syllabus.html 1-49-4 Global Navi 2014 1-49-5 明治大学外国語教育ホームページ http://www.meiji.ac.jp/edu/foreign/information/6t5h7p00000icw67.html 1-49-6 明治大学外国語教育ホームページ 「明治大学の外国語教育」 http://www.meiji.ac.jp/edu/foreign/index.html 1-49-7 明治大学GUIDE BOOK 2015</p>

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	理念や目的の適切性について、定期的に検証を行うシステムが十分とは言えないが、次年度の授業計画を策定する際に、設置科目や、設置キャンパス、開講の曜日時限について、委員会において適宜議論し、それらの開講科目が当委員会の理念や目的に対して適切となるように検証している。					
(I-2) 理念・目的に基づいた特色ある取り組み						
	特色のある取り組みとしては特別講座「夏期・春期集中講座」があげられる。長期休暇中の特別講座として、夏季休暇中には和泉キャンパスにて、「夏期集中講座」を英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種で開講している。春期休暇中には清里セミナーハウスにて英会話の合宿型集中講座を開講している。これらは、主にネイティブスピーカーの教員が担当し、少人数で集中的に行われる授業により、短期間で学習効果をあげることが可能で、学内・国内にしながら留学体験ができるプログラムとして、学部科目との差別化をはかっている。また、学生の夏期休暇中の語学プログラムの選択肢の幅を広げるべく、協定校（カナダ・ヨーク大学・マクマスター大学、イギリス・シェフィールド大学、ケンブリッジ大学）での語学研修プログラムを学部間共通外国語の単位として認定している。	2014年度は夏期集中講座では4語種で182名、春期英会話集中講座では64名が修了した【1-49-8】【1-49-9】。		全体的に履修希望者数が増えるよう、一層の周知に努める。		1-49-8 夏期集中講座年度別集計表 1-49-9 英会話春期集中講座年度別集計表

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第2章 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	本委員会の編成については、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規定【1-49-1】の中で以下のとおり、明確にしている。 ・運営委員会は、学長が委嘱する次の委員をもって組織する。 1) 教務部長 2) 副教務部長 3) 各学部教授会から推薦された英語科目担当の専任教員各1名 4) 各学部教授会から推薦された外国語（英語を除く。）科目担当の専任教員のうちから各学部各1名又は2名 「全学共通の学部間共通外国語科目における外国語教育の充実とその円滑な運営を図る」という本委員会の目的を達成するために、必ず各学部から2名以上の委員を選出してもらっている。 理念・目的との適合性としては、本委員会の委員は、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程第3条に従い、全9学部から2名または3名ずつの委員が選出されている。2014年度は英語種については各学部から1名ずつ・合計10名、ドイツ語種4名、中国語種3名、フランス語種2名、朝鮮語種1名、スペイン語1名の教員がそれぞれ委員として選出された。【2-49-1】	各学部から教員を集め、さらに各語種の教員を集めて運営委員会を組織することで、各学部・語種の意見をまんべんなく集約することができている。	運営委員会委員に学部間共通外国語科目を担当している教員が少ないため、授業の実情や現場の意見がすぐには反映されづらいと同時に、委員会の方針を担当教員に浸透させづらい。	委員会での決定事項を、各学部を持ち帰り、確実に報告してもらえるような工夫をし、学部との連携を強めていく必要がある。		1-49-1 明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程 2-49-1 2014年度学部間共通外国語教育運営委員会名簿
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	毎年、6月に開催される第2回委員会において自己点検評価を行っている【2-49-2】。					2-49-2 2014年度第2回 学部間共通外国語教育運営委員会議事録(2014年6月24日)

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 付属機関として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
a	●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該付属機関の理念・目的を実現するために、教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。【約400字】	教員に求める能力、資質などについて、本委員会は、科目担当者の予備的選考に関する事項のみ審議し、教員の採用に関しては各学部の採用基準に準ずる。【1-49-1】 教員組織の編制方針としては、毎年4月開催の第一回委員会にて、本委員の中から各語種一名ずつ「語種代表」を選出し【3-49-1】、語種代表が科目担当教員の調整、担当科目決定等をおこなっている。また、例年1月に開催している本委員会にて、各科目担当教員を決定している。【3-49-2】	語種代表を中心に語種ごとのシラバスの校正や、授業担当者の調整を行い、効率よく運営ができています。		語種代表と授業担当者とのつながりをより強くするため、懇談会などでの場を設け、内容を充実させる。		1-49-1 明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程 3-49-1 2014年度語種代表一覧 3-49-2 2013年度第4回学部間共通外国語教育運営委員会議事録
b	◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。【約300字】	先に記述の「語種代表」が各語種教員の連携役および責任者としての役割を担っている。					
(2) 付属機関等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか							
教員の編制方針に沿った教員組織の整備							
a	◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。【600~800字】	いずれかの学部にも所属している本学兼任及び専任教員が授業を担当している。					
教員組織を検証する仕組みの整備							
b	●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。【600~800字】	本人の希望および適性を加味し、先に記述の「語種代表」が中心となり、担当授業科目を調整し、その結果を委員会にて承認している。					
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
a	●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。【400字】	教員の募集・採用・昇格に関しては各学部の採用基準に準ずる。本委員会は、科目担当者の予備的選考に関する事項のみ審議し、教員の募集・採用・昇格等については、「明治大学教員任用規定」及び教員の所属する学部の規定に準ずる。					

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか						
教員の教育研究活動等の評価の実施						
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	授業については教育開発支援センターによる、授業評価アンケートが半期ごとに実施されており、その結果が教員にフィードバックされている。 また夏期・春期に開催される集中講座においては、受講学生全員を対象にアンケートを実施している。【3-49-3】【3-49-4】結果は講座運営母体である本委員会にて報告されるとともに、担当教員にも次回講座開催時の改善点としてフィードバックしている。また、2013年度より、集中講座で実施するアンケートに集中講座に関する設問のほかに、学部間共通外国語全般に関する設問を追加し、学部間共通外国語の認知度やイメージを問う他、フリー記述欄を設け学生に感想や要望を記入してもらっている。【3-49-5】【3-49-6】	集中講座については、担当教員や、委員、次年度の担当コーディネータにアンケート結果をお知らせし、次年度の講座運営の改善につなげている。		アンケート回答率を上げ、より正確なデータを得る。		3-49-3 2014年度夏期集中講座アンケート結果 3-49-4 2014年度春期集中講座アンケート結果 3-49-5 2014年度学部間共通外国語夏期集中講座アンケート 3-49-6 2014年度学部間共通外国語春期集中講座アンケート
教員の資質向上のための研修・諸活動(FD)の実施状況とその有効性						
b ●教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 (※)社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600～800字】	例年4月の年度初めに全語種の科目担当者懇談会を設けている。懇談会には当委員会の委員も立合い、質疑応答及び意見交換をおこなうことで、学部間共通外国語の理念についていっそうの理解を促し、議論している。2015年度は4月2日に開催し、学部間共通外国語に関する情報共有(履修登録手続きについて、授業の進め方等)をおこなった。【3-49-7】 2014年度より英会話について名称変更及び、シラバス・教科書の統一化を行い、教育内容・方法を新たに定め、各英会話科目の到達目標を新たに定義づけした。この改革について、改革初年度となった2014年度は、学生と教員の意見を聞くため、春学期の終わりに、統一教科書や授業内容についてのアンケートを学生及び担当教員に行った。【3-49-8】また10月にはFD Meetingを開催し、アンケート結果の報告や、教員と執行部で改革を実施している中で感じていることなど、意見交換を行った。さらにFD Meetingのなかでアンケート結果や教員の意見を元に、2015年度は指定教科書だけに縛らず柔軟性を持たせて各教員の推薦教科書を使用できるようにするなど、改革に対する改善を図った。【3-49-9】	改革の初年度として、アンケートやFD Meetingの実施により、意見交換の場を設けることで、改革内容をさらに改善することができた。		引き続きFDを実施し、教員と情報・意見を共有して授業の改善を図る。また、英語種以外の科目についても、設置について検討を行い改善を行っていく。		3-49-7 学部間共通外国語授業担当者懇談会・懇談会開催について 3-49-8 2014年度学部間共通外国語(英会話)春学期アンケート 3-49-9 2013年度学部間共通外国語担当者懇談会開催について

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。							
a	◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること。 【約600字】	本委員会の教育目標は、各学部設置されている外国語科目をサポートしつつ、より多面的な語学能力を向上させ、世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ』という本学の教育理念に基づき、「真の国際感覚」を持った「個」を育成することである。 「各学部設置されている外国語科目をサポート」するという教育目標に基づき、「会話・コミュニケーション」に重きを置いた科目を多く設置している。例えば近年では、本学の学部カリキュラムにおいて、初習外国語としての「スペイン語」の科目が充実してきた背景をうけ、学部間共通外国語では「スペイン語ⅠA・ⅠB」「スペイン語ⅡA・ⅡB」に加え「スペイン語会話ⅠA・ⅠB」「スペイン語会話ⅡA・ⅡB」を設置している。また、夏期・春期の休暇時期には、会話科目の集中講座を実施している。 また、「多面的な語学能力の向上」という教育目標に基づき、学部カリキュラムに設置されていない科目を充実させており、「イタリア語」「アラビア語」「ラテン語」「ギリシア語」などを開講している。 教育課程の編成として、本学は2004年度より半期制を実施しており、学部間共通外国語科目も、大学のルールに則り半期1単位とする授業を設置している。 長期休暇中に開講する集中講座については、2単位を与えている。 科目区分、必修・選択の別については、学生の所属学部・入学年度によって異なるため、「共通外国語シラバス」および「各学部シラバス・便覧」に明示している。単位数は「共通外国語シラバス」で明示している。【1-49-2】	「学部設置されている外国語科目をサポートする」という教育目標について、特に休暇中に行う集中講座は例年学生からの評価も高く、通常の授業がない期間に集中的に会話科目を中心に語学の勉強ができる機会を提供している。	学部設置されている外国語科目が多様化しており、それらの学部科目と共通井外国語科目の差別化を図ることが難しくなっており、履修者も減少傾向にある。	現在のように単位認定や授業時間数に縛られずに、フレキシブルな集中講座を作れるようにすることで、学生のニーズに合わせた内容・時期・時間数・回数などを調整して開講。	SGU採択に際し、グローバル教養科目群として再編し、現在のニーズに合った科目(内容・コマ数)の設置を検討し、見直しをする。	1-49-2 2013年度学部間共通外国語シラバス(既出)
(3)教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか							
a	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	周知方法と有効性について、新入生に対してはガイダンス期間にシラバスの配付、0h-o!meiji (明治大学独自のポータルシステム)で学生のポータルページへのお知らせを流すなどし、学部間共通外国語科目について周知している。 また、2014年度よりシラバスのPDFデータを作成し、ホームページ上でいつでも閲覧ができるようになっている。 集中講座はVTRを使用した説明会を開催しており、2014年度は夏期集中講座において、新たに撮影をし、作成した。また、各語種科目担当者や委員に授業内で紹介をしてもらうことで、学生に対し受講のきっかけを作っている。 また、学部を超えて横断的に履修できる科目である事を学生により知ってもらうため、2008年度から使用しているMLP (Meiji Language Program) というニックネームをシラバス等で前面に押し出し、「授業中の異文化体験!」というキャッチフレーズも用い、親しみやすさをアピールしている。【1-49-1】 社会への公表方法として、ホームページでの周知【1-49-3】のほか、おもに高校生対象に配付している本学ガイドブック【4(1)-49-3 148頁】内に共通外国語のページを設け明治大学全体の外国語教育と合わせてアピールしている。					1-49-3 明治大学外国語教育ホームページ http://www.meiji.ac.jp/edu/foreign/jikan/syllabus.html 1-49-7 2015年度明治大学ガイドブック

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画			根拠資料	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		Alt + Enterで箇条書きに	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述		
(4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか								
a	●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	委員会執行部においては、教育目標について議論される機会が多いが、委員会全体として教育目標の定期的な検証は十分とは言えない。		教育目標の定期的な検証は行われず、これまでの踏襲をつづけている。			グローバル教養科目群としての再編にむけて、執行部及び委員会、新たに教育目標を設定していく。	

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>						
<p>(1) 教育課程の編成・実施方針に基づき授業科目を開設し体系的に編成しているか</p>						
<p>必要な授業科目の開設状況</p> <p>a ◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】</p>	<p>学部間共通外国語科目では、4キャンパスで半期合計約130のクラスがある。会話科目を中心に科目を開設しているが、学部設置されていないラテン語・ギリシア語・アラビア語等も設置しており、学生に多様な学習機会を提供している。【1-49-1:2～5頁】学部横断で設置されている科目であるため、本学学生であれば4キャンパスのうちいずれのキャンパスでも受講可能としている。また原則全ての言語で授業の難易度に応じて「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のグレード制を設け、履修時には能力別クラス編成を行っている。グレード科目に対し「原則として履修順序はグレードの順とする」「異なるグレードを同時に履修することはできない」という履修ルールを設け、科目の順次性を保っている。【1-49-2:2～5頁】 また、シラバスにおいて各語種のクラスのグレード別に、「現在のレベル」「到達レベル」を明示している。【1-49-2:61～62頁, 71～73頁, 81～83頁, 100～105頁】段階的履修を担保している。なお、「海外語学研修プログラム」(カナダ・ヨーク大学・マクマスター大学、イギリス・シェフィールド大学、ケンブリッジ大学)も学部間共通外国語の単位として認定している。また、夏季休暇中には和泉キャンパスで9日間、「夏期集中講座」を開講し、英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種を設置している。春季休暇中には、清里セミナーハウスで合宿型の「英会話春期集中講座」を開講している。学生の、資格試験受験対策を目的とした科目として、「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」「資格中国語」の4科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキル修得をサポートできる科目を設置している。これらの科目は学部によっては卒業に必要な単位数に算入することが可能である。</p>	<p>学部に設置の少ない会話科目や、珍しい語種の科目を提供しており、またキャンパスや学年を越えて受講できることにより、学生に多様な学習の機会を提供できている。 各語種、レベル別の科目を用意し、そのレベルをシラバスで明示しているため、学生は何年次からでも個人にあった選択をすることができている。</p>	<p>キャンパス・語種により、履修者数にばらつきがある。定員を超え、受講できない学生がいる科目がある一方、履修者0ないしは1, 2名という科目もあり、ニーズと設置科目が一致していない部分がある。 全体的な履修者数をみても、近年減少傾向である。</p>	<p>共通科目として、学部の授業と比較して、学生の認知度は必ずしも高くないため、引き続きOh-o!MeijiやHPを利用して、学生への周知を強化する。</p>	<p>SGU採択に際し、グローバル教養科目群として再編し、現在のニーズに合った科目(内容・コマ数)の設置を検討し、見直しをする。</p>	<p>1-49-2 2014年度学部間共通外国語シラバス</p>
<p>b ◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】</p>	<p>4キャンパスで11語種の科目が設置されており【1-49-2】、幅広い語学の学習機会を提供している。 また、長期休暇に行われる「夏期集中講座」や「春期集中講座」は、集中的に会話を学ぶことで、国内にいながら留学しているかのような体験ができる講座となっている。 その他、学生の資格試験受験対策を目的とした科目として、「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」「資格中国語」の4科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキル修得をサポートできる科目を設置している。</p>	<p>集中講座では、長期休暇を利用し、ネイティブ講師を中心に集中的に語学を学ぶという点で、学生より高い評価を得ている。これらの講座について、長期留学への準備のために受講する学生や、これらの講座をきっかけに留学に興味を示す学生もおり、学生の学習意欲の促進の一助となっている。</p>		<p>SGU採択に際し、グローバル教養科目群として再編する際に、より内容や時間数を柔軟に検討できるようなフレキシブルで、ニーズに合わせられる科目に発展させる。</p>		<p>1-49-2 2014年度学部間共通外国語シラバス(既出)</p>

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）</p>							
c	<p>●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。(学生の順次的・体系的な履修への配慮) 【約400字】</p>	<p>原則全ての言語で授業の難易度に応じて「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のグレード制を設けている。グレード科目に対し「原則として履修順序はグレードの順とする」「異なるグレードを同時に履修することはできない」という履修ルールを設け、科目の順次性を保っている。【1-49-2:2～5頁】 また、シラバスにおいて各語種のクラスのグレード別に、「現在のレベル」「到達レベル」を明示している。【1-49-2:61～62頁, 71～73頁, 81～83頁, 100～105頁】</p>	<p>学部間共通外国語科目は会話中心の科目であり、履修時には能力別クラス編成を行い、原則すべての科目にグレード制（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）をもうけて段階的履修を担保している。グレードごとに現在のレベルと到達レベルを設定しているため、どのグレードから履修すべきか、どのレベルを目指すかということを判断できるように</p>		<p>設定しているレベルについて、学生のニーズを満たしているかの検証、改善の余地がある。グローバル教養科目群としての再編に合わせ、再検討を行う。</p>	<p>1-49-2 2013年度学部間共通外国語シラバス</p>	
<p>教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性</p>							
d	<p>●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか</p>	<p>「学部間共通外国語」の検証については、「学部間共通外国語教育運営委員会」が検証主体を担い、年4回委員会を開催している。6月の委員会にて、前年度の履修者数等を報告、現状を把握したうえで10月の委員会において、次年度の授業計画（設置コマ数、開設科目等）を検討し、1月の委員会において次年度の授業計画を確定している。</p>	<p>体系化しているグレードによって履修者数にばらつきがあったため、2015年度の授業計画時に、委員会でこれまで前年踏襲を基本としてきていたが、英語種の科目において設置科目数の見直しを行った。結果として履修者数の少ない科目の削除を行い、適正なコマ数を設置することができた。</p>		<p>英語種以外の科目についても、履修者数とのバランスを見て設置コマ数を引き続き検討していく。また、グローバル教養科目群としての再編にむけて、執行部及び委員会で、新たに教育目標を設定していく。</p>		
<p>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき各課程に相応しい教育を提供しているか</p>							
<p>教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容(何を教えているのか)</p>							
a	<p>◎何を教えているのか。どのように教育目標の実現を図っているのか。 【400字程度】</p>	<p>会話・コミュニケーションに重きを置いた科目を多く設置することで「各学部設置されている外国語科目をサポート」という教育目標の実現を図っている。例えば近年では、本学の学部カリキュラムにおいて、初習外国語としての「スペイン語」の科目が充実してきた背景をうけ、学部間共通外国語では「スペイン語ⅠA・ⅠB」「スペイン語ⅡA・ⅡB」に加え「スペイン語会話ⅠA・ⅠB」「スペイン語会話ⅡA・ⅡB」を設置している。また、長期休暇中に開講する「夏期・春期集中講座」では、学部の授業がない期間に会話を重点におく科目を学習する機会を提供しており、学部での授業の補完をしている。 また、学部カリキュラムに設置されていない科目を充実させ、「イタリア語」「アラビア語」「ラテン語」「ギリシア語」などを開講することで「多面的な語学能力の向上」という教育目標の実現を図っている。</p>		<p>学部に設置されている外国語科目が多様化しており、それらの学部科目と共通井外国語科目の差別化を図ることが難しくなっており、履修者も減少傾向にある。</p>		<p>SGU採択に際し、グローバル教養科目群として再編し、現在のニーズに合った科目（内容・コマ数）の設置を検討し、見直しをする。</p>	

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の 達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください					Alt+Enterで簡条書きに	
特色ある教育プログラムの内容とその効果(当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など)							
b	●特色、長所となるものを簡潔に記述し てください。 【200字～400字程度】	学部間共通外国語科目の教育内容は、学部の語学教育を補完し、主として会話を中心とした語学科目で構成されているが、特長的な科目としては「夏期・春期集中講座」があげられる。「夏期集中講座」は、夏期休暇中に本学キャンパス内で英会話・ドイツ語会話・フランス語会話・中国語会話の4語種を開講している。これらは、主にネイティブ・スピーカーの教員が担当し、少人数で集中的に行われる。英語クラスでは午前中にレベル別授業で「英語を学び」、午後はドラマ、ニュースペーパー、プレゼンテーション等の「Option Class」において「英語で学ぶ」授業が行われ、短期間で学習効果を上げている。【4(2)-49-1】また、夏期休暇中の語学力を高めるプログラムの幅を広げ、「海外語学研修プログラム」(カナダ・ヨーク大学及びマクマスター大学、イギリス・シェフィールド大学及びケンブリッジ大学)を学部間共通外国語の単位として認定している。春期休暇中には清里セミナーハウスにて英会話の「合宿型集中講座」を開講し、合宿中ほぼ英語のみを使用し、日常会話を実践する場として効果を上げている。2014年度は、夏期集中講座では4語種で182名、春期英会話集中講座では64名が参加した。講座最終日にはクラスごとに分かれて成果発表会(プレゼンテーション、外国語劇、調べ学習等)を行って成果を相互に確認している【4(2)-49-2】	集中講座では、長期休暇を利用し、ネイティブ講師を中心に集中的に語学を学べるという点で、学生より高い評価を得ている。また、普段の授業とは異なる、オプションクラスなどのアクティビティを多く含む授業を取り入れ、好評を得ている。これらの講座について、長期留学への準備のために受講する学生や、これらの講座をきっかけに留学に興味を示す学生もおり、学生の学習意欲の促進の一助となっている。		英語種以外の科目についても、履修者数とのバランスを見て設置コマ数を引き続き検討していく。また、グローバル教養科目群としての再編にむけて、執行部及び委員会で、新たに教育目標を設定していく。		4(2)-49-1 学部間共通外国語2014年度夏期集中講座、同 OptionClassシラバス 4(2)-49-2 学部間共通外国語2014年度春期集中講座募集要項

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1)教育方法及び学習方法は適切か						
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態(講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等)との整合性						
a	◎当該付属機関の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	学生とのコミュニケーション能力を中心とする外国語能力の向上を目指すため、会話科目については、原則としてネイティブの講師が担当している。また、各クラス定員を設けており、少人数での授業を行っている。 また、長期休暇中に実施される集中講座について、夏期集中講座(通い型)においては、和泉キャンパスで土日を除く9日間、春期集中講座(合宿型)においては清里セミナーハウスで7泊8日で集中的に、主にネイティブ講師から会話を学べる講座が開講されており、外国語でのコミュニケーション能力を効果的に学習できるようになっている。また英会話集中講座及び一部の通年開講授業では、パソコンを利用して海外ニュース・映像等の上映、雑誌編集・作成、ビデオ作成などを実施しており、本学の充実したマルチメディア機器・施設を利用した多様な授業形態を提供している。	会話科目については、主にネイティブの講師が担当しているため、本場の発音・表現方法を学ぶことができる。 各科目に定員をもうけていることで、適正人数での授業が可能となっている。		定員ぎりぎりの履修者がいる科目がある一方で、ごく少数の履修者しかいない科目があるため、履修者数の推移をみて、適正な人数となるようコマ数を調整していく。	
b	●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】	上述の通り、学生とのコミュニケーション能力を中心とする外国語能力の向上を目指すため、会話科目については、原則としてネイティブの講師が担当している。また、各クラス定員を設けており、少人数での授業を行っている。 また、学部の通常授業が行われていない長期休暇中に実施される集中講座では、集中的にネイティブ講師から会話を学べる講座が開講されており、外国語でのコミュニケーション能力を効果的に身に付けることができるようになっている。 学生の資格試験受験対策を目的とした科目として、「資格英語」「資格ドイツ語」「資格フランス語」「資格中国語」の4科目を設置しており、留学や就職の際に必要なスキル修得をサポートできる科目を設置している。	集中講座について、短期間に集中的にネイティブ講師から会話を中心とする語学を学ぶため、「国内にいながら留学体験ができる」というキャッチフレーズの通り、留学の練習、留学準備や留学後のスキルの維持のため利用されている。		SGU採択に際し、グローバル教養科目群として再編する際に、より内容や時間数を柔軟に検討できるようなフレキシブルで、ニーズに合わせられる科目に発展させる。	
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導(個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等)の工夫						
c	◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。 【約200字】	履修科目登録の上限単位数については学生の所属する学部ごとに異なる。修得上限単位数は学部間共通外国語の科目ごとに設けており、シラバスで明示している。【1-49-2:9~12頁】				1-49-2 2014年度学部間共通外国語シラバス
d	●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィスアワーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字~400字】	2014年度は共通外国語独自のガイダンスなどは行っていないが、一部学部では、学部のガイダンスの際に案内をしてもらっている。履修方法についてはシラバスに詳細に記述をし、また、Oh-o!Meijiで学生に履修上の注意等を周知している。				

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>学生の主体的参加を促す授業方法(学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等)</p>							
e	<p>●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし～800字】</p>	<p>全学共通の「学部間共通外国語」の教育方法は、「英会話(夏期海外英語研修)」によるケンブリッジ大学やヨーク大学等への海外で研修を行う形式や、休暇期間に集中して学ぶ「夏期・春期集中講座」がある。「夏期・春期集中講座」は、定員を設定した「少人数授業」による会話科目で構成され、主にネイティブ・スピーカーの講師が担当する。夏期・春期集中の英語講座では、午前中にレベル別授業で「英語を学び」、午後はドラマ、プレゼンテーション、ニューズペーパー等の「Option Class(選択科目)」で「英語で学ぶ」授業が行われる。オプションクラスでは、例えばマルチメディアを活用し、全編英語でのショートムービーを企画・台本作成・撮影まで学生自身が行い、「YouTube」に公開する等の教育方法が取られている【4(3)-1-25】。 春季休暇中に行われる本学清里セミナーハウスでの7泊8日の合宿型の「春期集中講座」では、授業時間以外も「日本語禁止」のルールを設け、館内放送もすべて英語であり、学生が英語を使うための仕組みを作っている。講座に同行する大学院学生TA3名が英語による生活・学習全般のサポートをしている。これら科目では「英語を勉強する」のではなく「英語で勉強する」という実践的プログラムを大学独自に開発し、提供している【4(3)-1-26】。</p>	<p>夏期集中講座は学内で約2週間、土日を除く毎日、集中的に各語種の会話を学べる講座である。春期集中講座は清里セミナーハウスでの合宿型講座で、授業時間以外でも「日本語禁止」のルールのもと生活を送りながら学ぶ講座である。これらの講座は「気分はプチ留学」というキャッチフレーズの通り、国内にいながら留学体験ができ、これをきっかけに留学を考える学生もおり、学生の主体的な学びを促進している。</p>		<p>SGU採択に際し、グローバル教養科目群として再編する際に、より内容や時間数を柔軟に検討できるようなフレキシブルで、ニーズに合わせられる科目に発展させる。</p>		<p>4(2)-49-1 2014年度夏期集中講座 OptionClassシラバス 4(2)-49-2 2013年度学部間共通外国語英会話春期集中講座募集要項 3-49-4 2013年度学部間共通外国語英会話春期集中講座アンケート結果</p>
<p>(2)シラバスに基づいて授業が展開されているか</p>							
a	<p>◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること【約300字】</p>	<p>共通外国語のシラバス原稿の作成において、統一したフォーマットに加え、執筆要領をもうけている。【4(3)-49-1】なお、英語種のシラバスは英語で記載されている。 完成したシラバスは、ガイダンスや各学部窓口で学生に配布されており、その内容を見ることができている。また、2014年度より、シラバスの講義内容部分をPDF化し、大学ホームページより閲覧できるようになっている。</p>	<p>シラバスには各界の講義内容を記載することで、より詳しい授業内容を学生に周知できている。4月上旬の授業開始前より、シラバスのPDFデータを大学ホームページ上に掲載し、学生があらかじめ確認できるようにしている。また、ネット環境があれば、いつでもどこでも閲覧することが可能となっている。</p>		<p>大学ホームページより事前に確認ができることについて、学生への周知を強めるとともに、科目の認知度を高める。</p>		<p>4(3)-49-1 2014年度MLP学部間共通外国語シラバス原稿の作成について(お願い)</p>
b	<p>●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p>	<p>各教員は定期試験または毎回の授業の小テスト等で学生の学習到達度を確認している。また、2014年度は春学期の終わりに、英語種の科目を受講している学生を対象にアンケートを実施し、「授業の進み具合は適当か」といった設問をもうけており、実態の把握をおこなった。【4(3)-49-2】</p>		<p>英語種以外の科目の整合性を図ることができていない。</p>	<p>全学で行っている授業評価アンケートの積極的な利用の促進。</p>		<p>3-49-8 2014年度学部間共通外国語(英会話)春学期アンケート</p>
c	<p>●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>上述の通り、執筆要領をもうけ、シラバスの原稿の作成について、ルールを提示している。また、執筆後は校正段階で各語種の語種代表にシラバスの内容について確認してもらっている。【4(3)-49-3】 シラバスに基づく授業の展開については、明確には管理ができていないが、「授業評価アンケート」に「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」といった設問がもうけられており、その結果は担当教員に知らされている。</p>		<p>実際の授業運営は、各教員に任されているため、明確にシラバスに基づいた授業が行われているか、という検証はできていない。</p>	<p>全学で行っている授業評価アンケートの積極的な利用の促進。</p>		<p>4(3)-49-2 2014年度学部間共通外国語シラバス初校原稿の確認について(お願い)</p>

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか							
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】	単位制度の趣旨に沿って以下の通り設定している。 ・通常科目は1週2時間、15週(30時間)で1単位。 ・半期集中科目は週2回の授業、1週4時間で2単位。 ・集中講座は30時間を1単位とし、1講座をもって2単位。 また、S(100~90点)、A(89~80点)、B(79~70点)、C(69~60点)、F(59点以下)、T(未受験)で評価し、C以上の成績を収めることが単位修得の条件となっている。【1-49-2:3頁】 成績評価方法については、シラバス上に担当教員が明示し、学生に周知している。会話の授業については、筆記試験ではなく、スピーチテストや授業態度が評価の対象となることも多く、それらの評価項目の割合については、担当教員がシラバスで明確に示している。 夏期集中講座においても、2013年度より4語種共通の成績評価基準をもうけ、募集要項や講座プログラム等に記載し周知している。 【4(3)-49-3】					1-49-2 2014年度学部間共通外国語シラバス4(3)-49-3 学部間共通議国語夏期集中講座成績評価基準について
b	◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】	学部間共通外国語科目は全学部共通の科目として設置されており、科目によっては、修得した単位を学部のルールにより卒業要件または学部の科目として振替えることが可能である。それらは各学部教授会の判断により決定されており、詳細は各学部便覧またはシラバスの履修案内に明示されている。					
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか							
a	◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	毎年4月の第一回学部間共通外国語教育運営委員会の後に、委員と学部間共通外国語の担当教員を集め、懇親会を行っている。そこでは、新年度履修手続き等に関する説明や、成績評価に関する説明などを行い、情報共有を行っている。 英語種については2014年度より英会話について名称変更及び、シラバス・教科書の統一化を行ったが、この改革について初年度であった2014年度は春学期終了後に、英語種担当教員に対してFDを実施し、授業の進め方や意見などを執行部と共有し、次年度に向けての改善のための意見交換を行った。【3-49-8】	学部間共通外国語においては、実際に授業を担当している委員が少ないため、懇談会やFDを実施し、双方及び事務局との間で情報共有が行えている。		FDについて、英語種を中心に行っているが、今後はプログラムの再編に向けて、英語種だけでなく、他語種についても、委員長・語種代表を中心にFDや意見交換ができる場を計画する。		3-49-8 FD招待状
b	●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	学部間共通外国語科目では、通常の授業については授業改善のためのアンケートを使用して、学生にアンケートを実施し、各講師に結果を報告している。夏期・春期集中講座については学生に独自のアンケートをとっており、委員会及び担当講師にフィードバックし次年度の改善に役立てている。また、集中講座で実施するアンケートに集中講座に関する設問のほかに、学部間共通外国語全般に関する設問を追加し、学部間共通外国語の認知度やイメージを問う他、フリー記述欄を設け学生に感想や要望を記入してもらっている。 【4(3)-1-71, 72】 英語種については、改革初年度として春学期終了後に英語種科目を履修している学生を対象にアンケートを実施し、授業の進め方などについて、調査をおこなった。結果及び教員のFDでの意見を受けて、2015年度授業計画に向けて課企画内容の改善をした。	集中講座終了後のアンケートにおいて、フリー回答欄を多く設け、自由に意見を書いてもらっているため、学生のニーズを適切に把握することができている。 また、2014年度は英語種のみであるが、通常期間の授業においても学生向けのアンケートを行い、学生の感想、要望を聞くことができた。		アンケートの結果を次年度以降の改善点としてより活用できるよう、細かい分析を行い、講座のコーディネータと共有する。 英語種以外の科目においても、通常期間の授業について、アンケートなどを活用し、学生のニーズをくみ上げられるようにする。		3-49-5 2013年度学部間共通外国語夏期集中講座アンケート 3-49-6 2013年度学部間共通外国語春期集中講座アンケート

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 3.教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の 達成状況を評価する項目です。 c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか 【約400字】	シラバスの校正の段階で、各語種の語種代表が責任者として、講義内容を確認している。 改善を図るための取り組みとして、英語種について、2014年度に統一のシラバス・教科書の使用により授業内容の統一化、教育内容・方法の新たな設定、各英会話科目の到達目標の新たな定義づけを行った。この変更に伴って、委員長を中心に、英語種の講師に対して、授業の進め方や教科書の使い方について半期が終わった夏季休暇後にFDを行い、学生へのアンケートの結果や担当教員の意見交換を行い、それをもとに改革内容のさらなる改善を図った。【3-49-8】 また、2014年度より夏期集中講座の授業時間数を45時間に見直したことを機に、これまで語種ごとにばらばらであった時間割について、委員会で検討をし、統一の時間割を使用することとした。【3-49-9】	問題点などがあつた時には、執行部で改善策を検討し、それを委員会で審議、承認の上、決定事項を担当教員に知らせる（場合によってはFDを開催して周知）、という流れができており、改善のプロセスが機能しているといえる。		グローバル教養科目群として再編において、大きな改善が必要になるため、より一層改善プロセスを明確にしていく必要がある。			Alt+Enterで箇条書きに 3-49-8 F D招待状 3-49-9 夏期集中講座 時間割の統一について

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第4章 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 ○列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで簡条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1)教育目標に沿った成果が上がっているか						
a ●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。 【なし～400字程度】	本章第1項「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成方針」に示したように、本学の理念・目的を達成するために、本委員会では人材養成目的（教育目標）を定め、この実現のために、教育方法・内容の工夫等をおこなっている（本章第1項参照）。学習成果の測定基準は、本委員会が目指す人材像の実現に向けて、科目ごとに、具体的な到達目標（レベル）を設定している。これらの到達目標（レベル）は「2014年度学部間共通外国語シラバス」内の「科目紹介」のページで明示している【1-49-2:33-35頁, 89-91頁, 101-103頁, 113-114頁, 131-137頁】					1-49-2 2013年度学部間共通外国語シラバス 33-35頁, 89-91頁, 101-103頁, 113-114頁, 131-137頁 3-49-8 F D招待状
c ●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか 【約400字～600字】	共通外国語独自では実施していないが、授業改善アンケートの中で、「あなたは講義を熱心に受講したと思いますか」「この授業で新しい知識や考え方を得ることはできましたか」「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」といった自己評価について学生にアンケートを取っている【4(4)-49-1】。 2014年度のアンケート結果をみると、「あなたは講義を熱心に受講したと思いますか」という設問に対して、肯定の回答である「思う（強）、思う（弱）」と回答したのは、春学期：76%、秋学期：74.5%、「この授業で新しい知識や考え方を得ることはできましたか」という設問に対して、「思う（強）、思う（弱）」と回答したのは、春学期：84.3%、秋学期：81.9%、「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」という設問に対して、「S」「A」と回答したのは、合わせて春学期：69.5%、秋学期：73.4.9%であった。【4(4)-49-2】	授業改善アンケートは各教員に結果が届き、各々で授業改善に役立てることができている。		教員の任意で実施しており、全教員が実施しているわけではないため、積極的活用を促す。		4(4)-49-1 学生による授業改善のためのアンケート結果 4(4)-49-2 2014年度学生による授業改善のためのアンケート 集計結果(春学期・秋学期)

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第6章 学生支援

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		Alt+Enterで箇条書きに
				(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか			
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	留年者及び休・退学者の状況把握と履修指導・学習指導の適切性について、学部間共通外国語科目の特徴として、①学年・学部・所属キャンパスに関係なく履修ができる点、②クラスはレベル別で、現在のレベル及び到達目標をシラバスにて明記しており、学生はレベルや到達目標に合わせて科目を選択できる点があげられる。この2点より、留年者は気軽に履修することが出来る。また、それぞれの科目に定員を設け、少人数教育を推進している為、教員は学生と非常に近い距離で学習指導を行なうことができている。【1-49-2 2頁】 障がいのある学生に対する修学支援措置の適切性について、2014年度は1名の聴覚障がいのある学生を「英会話IB」「フランス語会話IB」の2科目で受け入れた。秋学期の授業だったため、春学期中に「障がい学生学習支援チーム」の職員とともに授業に体験で参加し、教員とのやり取りを通じて、支援内容を検討した。実際の講義の際には、1回の授業に対して語学が得意な学生によるノートテイク2名ずつでサポートし、先生が話している内容などを文字におこすことで、当該学生が授業内容を理解できるように支援を行った。	合宿形式で行っている「英会話集中講座」については英語の堪能な大学院生のTAを3名採用し、講座に同行させており、学生へのきめ細やかな学習サポートが可能となっている。 障がいのある学生への支援に関しても、「会話科目」という、学部間共通外国語特有の科目ゆえに、語学が得意な学生による語学ノートテイクによる支援を行ったが、当該の履修学生からは、学部の語学の授業を受けた時よりも、より内容を理解できた、との感想があった。		春期集中講座については、TAによる学習サポートだけでなく、学生の生活の上でのメンタル面のサポートについても、マニュアル作成や、業務の明確化を行うことでより強化する必要がある。			1-49-2 2013年度学部間共通外国語シラバス

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第9章 管理運営・財務 1. 管理運営

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1)大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。						
a ●意思決定プロセスや、権限・責任(教学と法人の関係性)、中長期的な大学運営のあり方を明確にした管理運営方針を定めているか。 ●方針を教職員が共有しているか。	<p>明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程【1-49-1】に基づき、学部間共通外国語科目における外国語教育の充実とその円滑な運営を図るため、教務部委員会の下に専門部会として、管理運営している。教務部全体に関わる事項については、教務部委員会へ報告・審議依頼をする。</p> <p>中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知として、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程に基づき、管理運営している。</p> <p>意思決定プロセスの明確化としては、委員会で審議、承認された事項について、教務部全体に関わる事項については、本学教務部委員会にて報告または審議をおこなっている。</p> <p>委員会の権限と責任の明確化として、運営委員会は以下に掲げる事項について審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学部間共通外国語教育の計画、立案に関する事項 2) 学部間共通外国語教育の実施に関する運営上の事項 3) 科目担当者の予備的選考に関する事項 4) 教科内容に関する事項 5) その他学部間共通外国語教育に関して運営委員会が必要と認めた事項 					1-49-1 明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程
(2)明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか						
a ◎関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規程の整備とその適切な運用	<p>関連法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用として、当委員会は、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程に基づき、管理運営している。</p> <p>委員長等の権限と責任の明確化として、明治大学学部間共通外国語教育運営委員会規程により次のとおり定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 運営委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。 2) 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。 3) 委員長は、会議の議長となり、その運営の任に当たる。 4) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。 <p>委員長等の選考方法の適切性としては、委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。</p>					
(3)付属機関等の業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか						
a ●事務組織の構成と人員配置の適切性 ●検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか	<p>学部間共通外国語科目は、駿河台、和泉、生田、中野の4キャンパスで授業をおこなっており、事務担当者も4キャンパスに配置している。駿河台キャンパスでは教務事務室、和泉キャンパスでは和泉教務事務室、生田キャンパスでは生田キャンパス課が、中野キャンパスでは中野キャンパス事務室が担当している。委員会の運営、授業計画は原則として駿河台の教務事務室が中心となり、おこなっている。各キャンパスに担当者がいるため、現状を把握しやすい。</p>	各キャンパス担当事務局で細やかに連絡を取り合い、現状の把握や課題の共有を行っている。各キャンパスに事務担当者があるため、教員への事務連絡がスムーズに行えるほか、キャンパスごとの事情なども把握しやすい。		現在でも、次年度の履修方法に関することを検討する際に、各キャンパスの担当者で集まっているが、このほかにも定期的集まり、問題点やその改善策を検討し、委員会の改善につなげられるようにする。		
(4)事務組織の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか						
a (有効性、検証システムと改善状況) ●事務職員の資質向上に向けた研修などを行うことにより、改善につながっているか。	特別な方策は今のところ講じていないが、学部間共通外国語は、キャンパスを越えて受講できるという特色があるため、各キャンパスの担当事務局間では綿密な連絡を取り、情報共有をしている。					

2014年度学部間共通外国語教育運営委員会 自己点検・評価報告書

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1)大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的に行い、公表していること 【約400字】	毎年、単年度計画書及び長期・中期計画書を作成し、PDCAサイクルをおこなっている。 自己点検・評価運営委員会については、例年6月に開催している第2回学部間共通外国語教育運営委員会が兼務している。なお自己点検・評価については、委員長を中心とした執行部にて原案をまとめた上で、運営委員会にて審議している。評価報告書等の作成、公表については学部間共通外国語教育運営委員会の自己点検・評価報告書は明治大学ホームページで公表している。【10-49-1】 全教員対象の授業評価アンケートを実施しているほか、夏期・春期に開講される集中講座において受講生を対象にアンケートを実施している。【3-49-5, 3-49-6】結果は講座運営母体である本委員会にて報告されている【10-49-3】【10-49-4】。					10-49-1 明治大学ホームページ、大学評価 2012年度自己点検評価報告書 https://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/self/2013/index.html 3-49-5 2014年度学部間共通外国語夏期集中講座アンケート 3-49-6 2014年度学部間共通外国語春期集中講座アンケート 3-49-3 2014年度夏期集中講座アンケート結果 3-49-4 2014年度春期集中講座アンケート結果
(2)内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織(評価結果を改善)を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	自己点検・評価報告書については全学委員会に提出し、全学委員からコメントをもらっている。また全学的にとりまとめた報告書については、理事長のもとに組織される評価委員会で評価され、その評価結果は、学長に提出する次年度の年度計画に反映させている。					